

学生生活の支援としての PC 貸出サービス

笹倉理子*1・浅本紀子*1

Email: sasakura.michiko@ocha.ac.jp

*1: お茶の水女子大学情報基盤センター

◎Key Words PC の中期貸出, PC 自動貸出しロッカー マイパソコン

1. はじめに

お茶の水女子大学は、幅広い教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成という教育目標を実現するために、教育課程を編成し実践している。大学として推進している情報リテラシー教育と学生および院生の情報スキルの向上に寄与するため、情報基盤センターでは PC 教室や無線 LAN 等をはじめとした全学の情報利用環境の整備を行っている。本発表では、PC 教室以外の場における学生の情報活用を支援する、情報基盤センターの取組みを報告する。

2. 貸出マイパソコン

2.1 マイパソコン

お茶の水女子大学では、情報リテラシー教育の推進や全学生の情報スキルの向上を目指して、学部学科の専門性によらず、学生本人が管理者としてパソコンを持ち、各自の目的に応じて設定を行い、活用するスキルを身につけることを目指して、自分専用のノートパソコン「マイパソコン」を持つことを推奨している。

平成 19-21 年度の 3 年間は、学部 1 年生全員に大学から貸与した同一機種のパソコンをマイパソコンとして 1 年間活用してもらった。必修の授業内での利用開始ガイダンスの他に、貸与期間中に各種開講される少人数制の講習会への参加が推奨された。

平成 22 年度からは、個人所有のパソコンを入学時に持つことを推奨している。4 年間通して利用できるように大学で選定した推奨スペックを参考にして、機種や構成は本人が決定する。また、希望があれば大学から PC を借りることもできる。

マイパソコンの利用について、新入生を対象にパソコン活用室で各種講習会を実施する他、リベラルアーツ科目を中心に授業でも「マイパソコン」の利用を促進している。

2.2 貸出しマイパソコン

本学では、前述の通りパソコンのスキルの向上を目的としてマイパソコンを推奨しており、学部 1 年生が入学時にパソコンを購入しない場合にも、希望者に対して、1 年間に限りパソコンを貸与し、種々の講習を受けることができる制度を設け、好評を得ている。

情報基盤センターでは、その貸与の対象にならない学生（2 年生以上の学部生、大学院生）を対象として、旧システムで活用していたノートパソコンに OS、Office 統合ソフト、ウイルス対策ソフトをインストール

して貸し出す、中期貸出マイパソコンのサービスをしている。利用者がパソコンの管理についての基礎をすでに修めたことを前提とするサービスであるため、端末は初期設定をして管理者ユーザーでログインできる状態にして貸出し、その後の使い方はユーザーに一任している。

2.3 利用者の状況

利用者がパソコンを借りる時期は、学年、学期のはじめが多い。また、利用開始学年としては、学部 4 年生が最も多く、次いで博士前期 1 年生・2 年生の順に多い(図 1)。卒業研究や修士論文(それに関する研究)に取り組むタイミングでの利用が多いと考えられる。

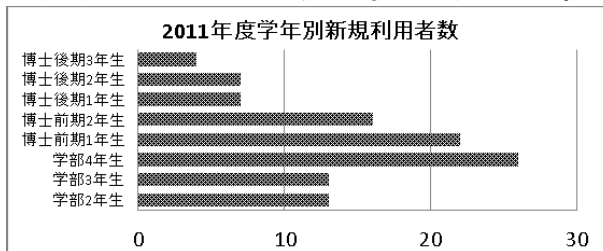


図 1 新規利用者数(学年別)

学部・専攻別にみた利用の状況は図 2・図 3 のようになる。学部では 3 学部のいずれも同じ程度の利用があるが、大学院では文系の学生の利用が多い。

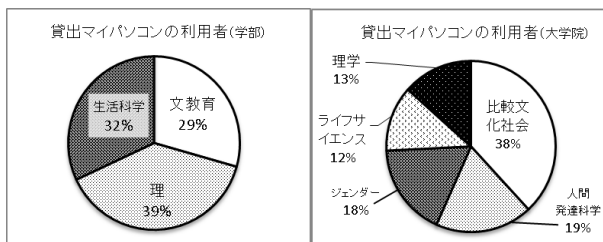


図 2 利用者数(学部)

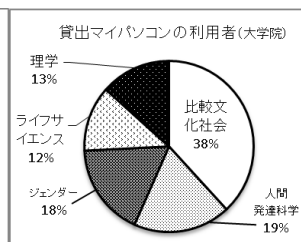


図 3 利用者数(大学院)

3. パソコン自動貸出ロッカー

3.1 パソコン自動貸出ロッカーについて

お茶の水女子大学図書館では、平成 22 年 4 月より、ノートパソコンの自動貸出ロッカーを設置し、情報基盤センターがノートパソコンを配置して、パソコンの自動貸出しサービスを実施している(当日貸・館内利用限定)。平成 22 年 4 月に 1 台設置されたロッカーが好評だったため、平成 24 年 4 月に増設し、現在は、ク

ワイエットスタディスペースと、閲覧スペースの2カ所にロッカーを設置運用している。各ロッカーでは、Macintosh 端末と Windows 端末が利用できるようになっており、どちらも同じように利用されている。

導入当初より、端末の更新作業は1台ずつ行っていたが、平成24年度から新しく、無線/有線のどちらでもイメージ更新が可能となる端末管理方式を採用した(*)。これは、仮想化技術を応用した端末起動方式で、イメージの差分更新、バックグラウンドでの更新自動化、複数のハードウェアへの対応、環境復元等が可能であり、管理業務が効率化できると期待される。

(*)株式会社アルファシステムズ製「V-Boot」

3.2 端末の利用について

ネットワークやプリンタの使用方法については、各パソコンにマニュアルを添付している。また、図書館の1Fには学生のための学修空間として設置されたラーニング・commons¹⁾があり、利用者のサポート役としてラーニングアドバイザーが常駐している。ラーニングアドバイザーは、パソコンに関する質問に対応する²⁾ので、利用者は分からないことがあれば館内で質問をすることができる。

3.3 利用状況

平成23年度の利用状況を見ると、授業のある期間では、学期のはじめや学園祭の時期に利用が少ない傾向にある。授業日1日の利用は、おおむね70件程度であった。また、1回の利用時間は1~3時間程度が多く、平均利用時間は2時間42分である。また、月によって差があるものの22年度と比較すると利用者は増加している(図4)。

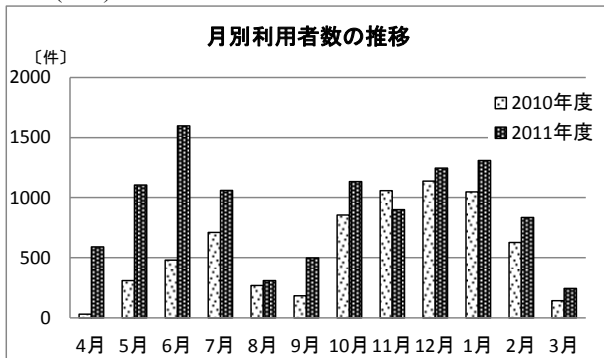


図4 利用者数(月別)

利用者を学年別に見ると(図5)、最も多いのは学部3年生(27%)で、次いで2年生(23%)、4年生(21%)と続き、学部生の利用が8割を占める。また、所属別に見ると文教育学部(46%)が最も多く、生活科学部(19%)、博士前期(16%)となり、文系の学生の利用が多い様子が分かる。

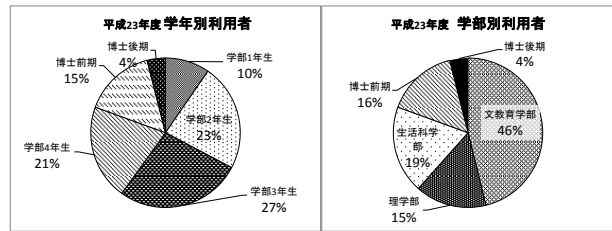


図5 利用者数(学年別)

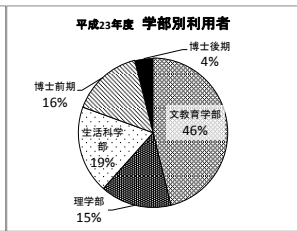


図6 利用者数(所属別)

3.4 課題

ロッカー運用上のトラブルはほとんどないが、時々あるトラブルとして、返却時にパソコンを置く位置が悪くセンサーが反応しないなどの理由で、ユーザーが返却したのに正しく認識されず返却時エラーがおこり、次に借りられないというトラブルが発生する。

また、ロッカー内のパソコンの利用状況はとてもよく、パソコンの破損、盗難などの大きな問題はない。懸念事項としては、図書館内の利用に限定しているのだが、館外持ち出しの申し出や目撃情報がときどきあることがあげられる。このため、昨年度末より、ユーザーの良心に訴えるポスターや、図書館の蔵書持ち出し防止システムを利用した持ち出し防止策を実施している。

4. おわりに

私たちは、パソコンの活用スキルの向上だけでなく、どの学生も平等に情報機器を活用して、学修はもちろん、クラブ・サークル活動、就職活動に積極的に取り組んで欲しいと考えている。

学生生活をより充実したものにするために、学内の情報機器・情報サービスなどを効果的に活用してもらうために、よりよいサービスを提供していきたい。

参考文献

- (1) 茂出木理子：“ラーニング・commonsの可能性：魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学の可能性”，情報の科学と技術58巻，7号，pp.341-346 (2008)。
- (2) 桑名杏奈，池田佳奈子：“ラーニング・commonsにおける学生支援”，高等教育と学生支援：お茶の水女子大学教育機構紀要，第2号，pp.77-80 (2011)。

参考ウェブサイト

- ・ 21世紀型文理融合リベラルアーツ
<http://www.ocha.ac.jp/la/>
- ・ お茶の水女子大学図書館
<http://www.lib.ocha.ac.jp>
- ・ 情報基盤センター
<http://www.cc.ocha.ac.jp>
- ・ パソコン活用室
<http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/>